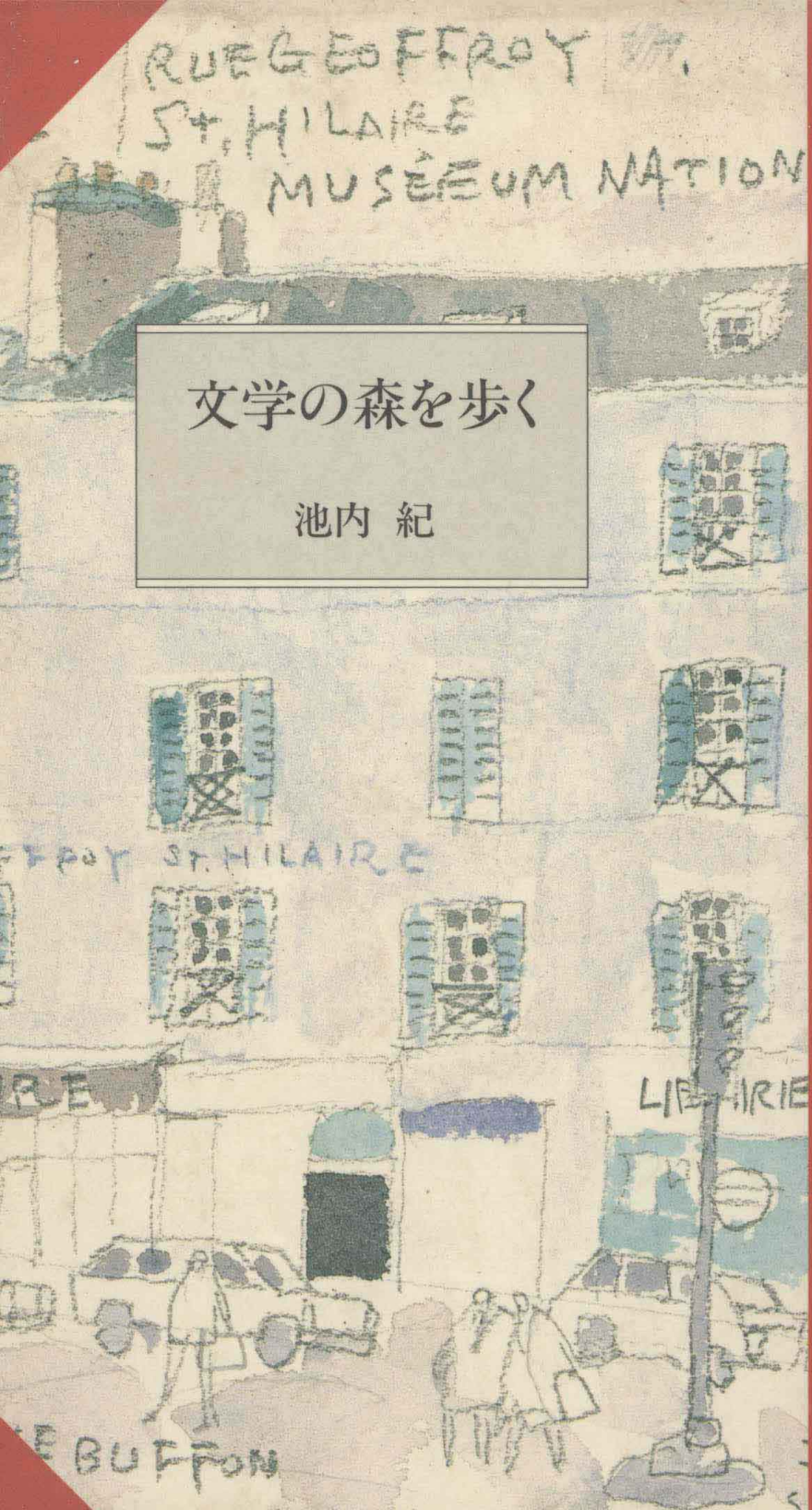
文学の森を歩く

池内 紀


RUE GEOFFROY
ST. HILAIRE
MUSÉEUM NATION
ST. HILAIRE
LIBRIE
BUFFON

文学の森を歩く

筑摩書房

池内紀（いけうち・おさむ）　ドイツ文学者。1940年姫路市生まれ。1965年東京大学大学院修了。現在，東京大学助教授。著書：「ウィーンの世紀末」「ことばの演芸館」（白水社）「地球の上に朝がくる」「天のある人」（河出書房新社）「闇にひとつ炬火あり」「私の人物博物館」（筑摩書房）ほか。訳書：カネッティ「眩暈」アメリー「さまざまな場所」「罪と罰の彼岸」（法政大学出版局）「カフカ短篇集」「ホフマン短篇集」（岩波文庫）ジュースキント「香水」（文芸春秋）ほか。

文学の森を歩く

一九八九年五月二十九日　第一刷発行

著　者　池内紀
発行者　関根栄郷
発行所　株式会社　筑摩書房
東京都千代田区神田小川町二―八　〒一〇一―九一
電話東京二九一―七六五一（営業）
二九四―六七一一（編集）
振替口座東京六―四一二三

装　本　安野光雅
印刷所　三松堂印刷
製本所　鈴木製本所

本書の定価はカバーに表示してあります。
落丁本・乱丁本はお取りかえいたします。
© O. IKEUCHI 1989 Printed in Japan
ISBN4-480-81273-3　C0095

目次

道案内

＊

いつの世の契りなりけむ　……　加藤道夫「なよたけ」……5

美は秀麗な奔馬である　……　三島由紀夫「花ざかりの森」……17

つつましい恋物語　……　ラディゲ「肉体の悪魔」……29

切り出されたばかりのダイヤのように　……　コクトー「怖るべき子供たち」……41

会えないことのうれしさ　……　カフカ「ミレナへの手紙」……53

「いけませんわ」と彼女は言った　……　チェーホフ「犬を連れた奥さん」……63

わが肉のほむら　……　ナボコフ「ロリータ」……75

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com

恋を夢見る ……石坂洋次郎「若い人」……85
「いつだっていいのだわ、結婚なんて」……野上弥生子「真知子」……95
*
家庭の幸せ ……ルナール「にんじん」……107
「人は、生まれ、苦しみ、そして死ぬ」……モーム「人間の絆」……119
いたいけな凡人の肖像 ……ゴッホ「ゴッホの手紙」……131
薬売りのおじさん ……ケストナー「人生処方詩集」……141
「鼻だ、まさしく鼻である！」……ゴーゴリ「鼻」……153
「革命も悪くないな」……魯迅「阿Q正伝」……165
いのちの倹約 ……山本周五郎「季節のない街」……177
上野発青森行 ……太宰治「津軽」……189
あ、とうとう、はじまッちまッたい ……桂文楽演「寝床」……199
ちょうど時間となりました ……広沢虎造演「森の石松」……211

*
たとえ天地はてるとも ……白居易「長恨歌」……221
弟子一人ももたずさふらう ……親鸞「歎異抄」……233
浮き沈み はては泡とぞ なりぬべき ……源実朝「金槐和歌集」……243
皆さん、もそっと、これへ ……ワーグナー「ニーベルンゲンの指環」……253
ひらけ、ごま ……マルドリュス版「千一夜物語」……265
浮かれ騒ぎも、ここらが潮どき ……W・B・イエイツ編「ケルト妖精物語」……277
目かいの見えぬものでござります ……小泉八雲「耳なし芳一」……289
酒の匂い、女の香気 ……永井荷風「ふらんす物語」……299
*
天の道理・人の情 ……福沢諭吉「学問のすゝめ」……311
食欲、ならびに肥満について ……サバラン「美味礼賛」……321
オスとメスの戯れ ……ダーウィン「種の起原」……331

紀元八十万二千七百一年 ……ウェルズ「タイム・マシン」……341
人の国・馬の国 ……スウィフト「ガリヴァー旅行記」……351
*
——以下次号 ……デュマ「三銃士」……363
ピストルをもった王子さま ……チャンドラー「大いなる眠り」……373
自分が殺される日 ……ガルシア＝マルケス「予告された殺人の記録」……383
ジーンズをはいた死の天使 ……カポーティ「冷血」……393
*
森の仲間へ——あとがきにかえて

文学の森を歩く

道案内

この本は、それぞれが順に
作品紹介
作者紹介
作品抄
エッセイ
からできています
順に読まなくてはならない、というわけのものでもない
とんでもない
展覧会の会場などで見かける ← のようなもの
ヘソまがりは逆に行く

そもそも
「作品抄」などでわかったためしがない
それはそうなのだけれど
そこのところはお目こぼしねがって
では、ごゆるりと――
ついでながら
文学の森のひとり歩きは
この本の終わったところが、ほんとうのはじまり
ひきつづき
ご自分でずっと続けていただきたい
ある人が言いました
ずうっと続いて、いくらでも引き伸ばせるものは
蓮根の糸と、ぎょうせん飴(あめ)と、牛のよだれ

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com

いつの世の契りなりけむ

なよたけ

加藤道夫

詩劇の形式をとった全五幕のドラマ。昭和十八年秋に執筆、南方赴任の直前に完成。「竹取物語」に材をとり、「万葉集」や王朝文学、とりわけ釈迢空（折口信夫）の影響が強い。冒頭に次のような口上がある。「『竹取物語』はこうして生れた。世の中のどんなに偉い学者達が、どんなに精密な考証を楯にこの説を一笑に付そうとしても、作者はただもう執拗に主張し続けるだけなのです。〝いえ、竹取物語はこうして生れたのです。そしてその作者は石ノ上ノ文麻呂と云う人です……〟」。昭和二十六年、菊五郎劇団によって初演をみた。

加藤道夫　一九一八（大正七）―一九五三（昭和二八）　福岡生まれ、三歳のとき東京に移る。慶大予科のころ劇作家岸田国士を知る。芥川比呂志らと「新演劇研究会」をつくり、演出、劇作を手がけた。東部ニューギニアで敗戦をむかえ、昭和二十一年に帰還。同年「なよたけ」刊行。滝浪治子（女優・加藤治子）と結婚。長岡輝子、荒木道子、芥川比呂志らとともに文学座に入り、活発な演劇活動をつづけていたさなかに、突如、自殺をとげた。作品はほかに「思い出を売る男」「天国泥棒」など。死後二年して一巻本の全集が出た。

なよたけ（抄）

なよたけ　恐しいこと！……じゃ、みのり！　お前はどんなことした？
みのり　あたし、去年の冬、蓑虫を真裸にして、冷い雪の上に捨てちゃったの。
なよたけ　無慈悲なこと！……蝗麻呂！　お前は？
蝗麻呂　僕、蝗をたくさんとって来て、片っ端からお醤油をつけて焼いて食べた。……
なよたけ　まあ、むごたらしい！……そんなことをするから、後の世の人達が食べなくてもいいものまで食べるようになってしまうんだわ。……じゃ、こがねまる！　お前は？
こがねまる　（非常な躊躇）……おら、……おら、……
なよたけ　いいから、云いなさい！
こがねまる　おら、……いつだったか、お薬鑵の中に黄金虫を一杯つめ込んで、……お湯をかけて、焚火で沸かして、……「煎じ薬」だよってごまかして、胡蝶に飲ましちゃったイ。

＊　＊　＊

文麻呂　（……）俺の魂がなよたけを呼べば、彼女はいつでも微笑みながら、俺の前に現れるのだ。なよたけの唄が聞きたくなれば、俺はいつでもはっきりと聞くことが出来る……

小野　はっきりとか？

文麻呂　はっきりとだ！……例えば、俺は今、ここでこうして眼をつむる。……（眼をつむって）おう。……はっ、き、りと聞えて来るのだ。なよたけとわらべ達の唄うあの春の唄だ。……

＊　＊　＊

小野　（意を決したように、悲壮な顔）石ノ上！　俺は失敬する！　君を見棄てるのは忍びないが、俺は気違いと行動を共にするのはまっぴら御免だ！　君がなよたけの唄と聞いているのは、あれは山籠りに行く行者どもの呼ばい声だぞ！　君が小鳥の声と聞いているのはあれは鈴の音だ！　君は気が狂っているんだ！　恋のために気が狂っているんだ！　君とはもう今日限り絶交だ！　清原だってもう君とは手を切ったぞ！　都中の人達はみんな君のことを気違いだと云ってるんだ！　君なんかと交際ってたら、俺達はどんな眼に遭わされるか分りゃしない！　と

んだ「人笑え」だ！　俺達までが気違い扱いにされちまうからな！　俺達の将来まで滅茶滅茶にされちまうからな！

文麻呂　（悲痛な声をしぼって）小野ッ！　何を云うんだッ！　待ってくれ！……小野ッ！

＊　＊　＊

なよ竹やぶに　春風は
　さや　さや
やよ春の微風（かぜ）　春の微風
　そよ　そよ
なよ竹の葉は　さあや
　さあや　さや

なよ竹やぶに　山鴿（やまばと）は
　るら　るら
やよ春のとり　春のとり
　るろ　るろ

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com